

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末は米国の大統領選挙でトランプ氏が勝ったことにより、同氏の大型減税やインフラ投資政策、金融規制の緩和期待などから米景気加速を先取りする形でドルが上昇し、ドル/円は2ヶ月で20%近い大幅な上昇となりました。

【ドル/円 週足】



このドルの上昇は、それまでに積み上がっていたドルショート巻き戻しが先行し、その後ドル上昇を予想する投機筋によって一段と買い上げられたことによって急進しました。

しかし、年明け以降は、トランプ新政権が中国や日本・ドイツに対してドル高をけん制する発言を出しとことなどから調整の動きが強まりました。

これまでトランプ大統領が発信してきた経済政策はドル高促進的なものであることは間違いがなく、発信どおりの政策が実施されるのであれば、ドル高基調は継続されるものと考えます。

ドル上昇を基本シナリオとした場合、リスクもはっきりしており、それはトランプ政権が実際に打ち出す政策が市場を失望させるものであり、米景気に陰りが出てくることであると考えられ、トレードに際しては米景気動向に注意していく必要があるでしょう。

また、保護主義的な貿易政策や外交政策はドル高を抑制する要因となり、マーケットの焦点がこれらの問題に集中したときには一時的なドル安が起きるものの、大きな影響が出てくるには時間がかかるため、トレードをするうえではまだ先の材料といえるでしょう。

いずれにしても、当面のドル/円相場は米国の新政権の動向に左右される展開が続くものと思われます。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、114円台後半でスタートしたものの、トランプ米大統領による大統領令やドル高けん制発言を受けてドルが全面的に軟調に推移し、112円台前半まで下落する動きとなりました。

年初からの調整相場が続いており、先週の動きで115円が強い上値抵抗となっていることが示されたといえます。

今週も、ドルの上値の重い動きが予想されます。

ドルの上昇のためには、トランプ大統領の経済政策への言及が必要と考えられ、今月中旬の予算教書の発表まで待つ必要があるようです。

ただし、週末の日米首脳会談でより緊密な連携の合意がなされた場合は、今後の日本に対する政策批判や円安けん制発言などが控えられるようになる可能性もあるため、積極的にドルを売り込むムードにもなく、ドルの戻り売りを狙いながらも111円~115円でのレンジ相場が継続しそうです。